

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0970300448		
法人名	株式会社ユニマット リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	栃木グループホームそよ風(さつきユニット・さくらユニット共通)		
所在地	栃木県栃木市沼和田町10-10		
自己評価作成日	平成30年3月6日	評価結果市町村受理日	平成30年5月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaiokensaku.jp/09/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人アスク		
所在地	栃木県那須塩原市松浦町118-189		
訪問調査日	平成30年3月23日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができる (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己 外 部	項目	自己評価	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		実践状況			
I. 理念に基づく運営					
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者の人権尊重を基本とし住み慣れた地域で交流を維持しながら活き活きと暮らせるホームを目指しております。事務所や日誌に掲示し毎日の理念共有を図っております。	そこに暮らす利用者を尊重することを基本に、「楽しい、うれしい、ほっとする」を実現するため、日常はゆったりとした生活を送り、行事など特別な日は楽しみ、「お家」と思ってもらえるようなホームを目指している。管理者は、「いつもと同じであること」を大切に、不安にならずに落ちつける場所、穏やかな気持ちで過ごせるような支援を心がけるように職員に伝えている。		
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、地域開催のお祭りや敬老会に参加しております。事業所開催の納涼祭に近隣住民が参加して下さっています。	自治会に加入していることで、自治公民館で開催される敬老会に利用者が参加し、事業所が主催する納涼祭には自治会で活動する長寿会の皆さんを招待するなど相互の交流がある。納涼祭では、近隣住民を誘う回覧板を自治会で回してもらうほか、職員がお知らせのチラシを各戸配布している。		
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の敬老会にて事業所が介護保険の講習を行いその中で認知症への理解・協力を進めております。			
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的に開催しており利用者様状況や活動内容を報告し、委員会の方からのご意見や情報提供を受けサービス向上に取り組んでおります。	運営推進会議では委員からの情報提供があり、ホームでの取り組みや課題、家族からの意見に対しても具体的に話し合われている。その中で、今の職員体制では利用者全員で桜祭りに行けなかつたが、家族会からの提案で、家族の協力を得て桜祭りに全員で行くことを可能にしている。	運営推進会議への参加者が少ないことが課題となっている。地域包括支援センターが直営のため、行政職員の参加がない。そこで家族の参加を増やすことや、関わりのある地域の人に依頼するなど委員を増やす工夫を期待する。	
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括ケア推進課の職員を通して事業所の状況を伝え、課題の共有化に努めています。	計画作成担当者は利用者の更新申請時に、管理者は報告すべき事例があった時など担当課を訪れる機会に情報を交換している。	外部評価結果報告書は市に提出することになるが、ケアサービスの取り組み状況を評価しているものであることから、市の担当者から評価結果に関して意見をもらうなど協力関係を築くことも期待できる。	

自己 外 部	項 目	自己評価	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		実践状況		
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	人権尊重を基本理念とし、拘束を行わないケアに取り組んでおります。また、口語としても行動を抑制する言葉づかいが無いように配慮しております。	人権尊重を基本として徹底していることから、身体拘束の対象となる行為は固く禁止されており、否定的な言葉や抑制するような言葉かけをすることなく、直ぐに近寄って対応している職員の姿があった。施錠に関しては、利用者が離設の恐れや不穏状態の時などで職員が個別介助で対応できない場合に限定している。	
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止研修へ参加し、虐待への理解を深めております。また職員の心理状況にも注意しております。		
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要時に支援体制の整備に努めております。居宅介護支援事業所とも情報交換をし、最新の情報の取得に努めています。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時以降の制度改正や報酬の変更、料金改定に関して重要事項説明書別紙を策定し、説明、同意を頂いております。		
10	(6) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族懇談会を行い家族様同士の意見交換や施設の状況開示、意見要望をお聞きする機会を設けております。	利用者と一緒に食事をしながら家族会を行っていたが、家族だけの会を行うことも試みている。その場では様々な意見交換が行われ、家族の思いを共有、共感できる時間になっている。また、家族からの要望で、職員の異動や退職のお知らせを家族に出すようにした。	
11	(7) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議で職員の意見を集め改善に取り組んでおります。管理者と職員が日常的に意見交換できるような配慮をしております。	同法人の隣接する施設全体で開催される会議で職員から出された意見や提案を基に運営の改善を図っている。また、グループホーム内の職員会議でも意見を出し合っている。業務改善の一つとして休み時間の取り方を見直し、更に業務改善について検討を続けている。	

自己 外部	項目	自己評価	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		実践状況		
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は現場第一主義を念頭にし、やりがいをもって働ける環境・条件整備に努めています。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を毎月開催し職員のスキルアップ、精度理解に繋がっております。外部研修の機会も確保しケアの質の向上に努めています。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との協議会に参加し研修や相互訪問等の機会を確保し情報の交換を行っています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より本人様も含めて見学の機会を作り、心理的な不安を軽減しご理解とご要望の把握を行っての入所を行っております。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に見学を含め家族の訴えをお聞きし話し合う時間を確保しております。ご家族様とご一緒に本人様を支援していく関係を作っております。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状必要とされている課題をご本人様やご家族様のお話から導きだし専門的知識を持ってサービスを提供するよう努めています。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場における暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者本人様と共に暮らすという姿勢のもと、残存能力の活用という視点を持ち共に生きる関係を気づけるよう努めています。		

自己 外部	項目	自己評価	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		実践状況		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場における、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様と共に支援していく姿勢でご利用者様のご様子を密に報告し、ご一緒に支えていく関係が保てるよう行っております。		
20	(8) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親しい方との交流が継続出来る様、来所しやすい雰囲気、応対やきっかけの提案を行っております。また外出に対してアドバイスを行い、ご家族様の負担を緩和するよう支援しております。	家族や親戚だけでなく、かつてのご近所の人が家族の代わりに訪ねてくることもあるので、ホームでの近況を報告し、コミュニケーションを大切に対応している。ホームで花見に行く時もその人がかつて行っていた場所などを把握し、馴染みの所に行けるように支援している。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コミュニケーションの活性化を視点にした席の配置工夫を行い、相性を考慮し助け合う関係性を持てる支援を行っております。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて対応できるように努めています。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者個人の違いを尊重し、ご本人様の会話や表情から想いや意向をくみ取るようにしております。過去の生活歴や家族様の情報からも把握するように努めています。	その人のかつての仕事や得意だったこと、好きなことを把握し、役割を見いだし、役に立っていることを実感し、それが喜びに繋がるような支援を心がけている。家族を優先していつも最後にお風呂に入っていた人の「一番風呂に入りたい」との希望を叶えている。また、何もやりたくないと言う人は、「今までいっぱい働いてきたのですから、やらなくても良いのですよ」と声を掛け、でもお皿拭きなど負担とならない役割を担ってもらっている。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の生活背景を把握し、ご家族様だけでなくご友人等の面会者からも可能な限り情報を収集し本人様の理解に努めています。		

自己 外部	項 目	自己評価	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		実践状況			
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々人が、その方らしさを發揮し生活できるよう暮らしの現状を把握し、有する能力を実行する機会の確保に努めています。			
26	(10) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様の話や家族様の意向、主治医の意見を取り入れ計画を作成しております。	介護計画作成担当者は、家族や介護職員が把握した本人の意向と日常の通院介助時に得た医療に関する情報を介護計画に盛り込み、家族にはプランに対する意見を聴取し、その上で計画として仕上げ、同意を得ている。		
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様のご様子や気付いた事、その日に起きたことなどをケース記録に残し、ケア実践・介護計画の見直しを行っております。			
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や家族様の状況の変化に応じて必要なサービスであるよう対応しております。			
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員やボランティアの方の協力を得て、地域公民館の老人会に参加しております。			
30	(11) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族と相談の上、主治医とする医療機関を決めて頂いております。従来のかかりつけ医の受診に関して状況により自送迎の支援を行っております。	かかりつけ医への受診は原則として家族が付き添い、通院介助ができない家族や車椅子対応などの場合は職員が協力医への通院支援を行っています。また訪問診療を個人的に契約している利用者もいる。病状や薬などの情報は、家族とは口頭やメモ、職員とは申し送りノートなどで伝達・共有している。受診結果のやり取りで不安がある際は病院に確認や問い合わせの電話をすることもある。	家族の通院介助の際、口頭やメモで行っているが、職員が的確に利用者の情報を医師や家族に正確に伝達できるよう受診支援の書式を整備することを期待したい。	

自己 外部	項目	自己評価	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		実践状況		
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師へは特変時直ぐに状態連絡を行うよう予め取り決めと連絡ルートの構築を行っております。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、退院カンファ島の会議やSW・病棟と必要な情報提供を受け、早期退院への支援を行っております。		
33 (12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の重度化に伴いご家族様と話し合ひ方針を決め支援しております。主治医の協力がある方でご家族様の希望される際は終末期の対応を行っております。	医療行為(酸素・経管など)が必要となった場合、医療体制が整っていないため、現段階では事業所での対応は難しいと判断し、特養や病院に移行する場合もあることを事前に家族に伝えている。重度化した場合は、できることやできないこと(入浴など)を家族に説明した上で、家族の相談にできるだけ対応しようとしている。法人としてはターミナルケアを視野に入れている。	利用者、家族が事業所での看取りを希望した時や利用者の状態が大きく変化した時に、事業所としてどのような支援ができるか明確にして、終末期支援の体制を整えることを期待したい。
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けています	緊急対応マニュアルの整備をしご利用者様の急変時に速やかな連絡ができるようにしております。急変対応としてAED講習や救命の研修を行っております。		
35 (13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難・災害対策・備蓄品の整備、災害対策班の体制はできております。地域住民との協力体制は十分とは言えません。	隣接施設のセンター長が避難訓練計画を立てている。当事業所で年1~2回の避難訓練や消防・自然災害の研修を行っているが、職員全員が参加できず、習得状態が把握できていないのが現状である。緊急時隣接している事業所に協力は得られるが、2階の利用者の避難方法や夜間想定訓練などが課題となっている。スプリンクラーは設置されており、災害時備蓄は利用者一人当たり三日分(飲料水、缶詰、主食、お菓子など)用意されている。	日中、夜間想定を含めて総合訓練(誘導訓練・消火訓練・通報訓練)を全職員が周知し戸惑うことなく行える状態とすることが求められる。

自己 外 部	項 目	自己評価	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		実践状況			
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様のその時間時間で過ごしたい場所を把握し、居室に居たい方、共用スペースが安心する方等、昼夜を通してその方の希望に沿い、否定せず尊重した声掛けで対応に努めています。	トイレの誘導時には、利用者の気持ちを傷つけないように周りの人に配慮しながら声掛けをし、ドアを閉めるようにしている。利用者の意思を尊重し本人にとって何が最善か、職員が利用者に敬意や親しみを持って対応するようにしている。職員の気になる言葉遣いなどはその都度管理者が注意している。個人ファイルの管理は鍵のついた棚に収納している。		
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行動・言動・表情から察知し、言葉以外でも文字等、理解しやすい表現で自己決定を促しております。			
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理強いにならない範囲で活動の声掛けを行っております。			
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	状況に沿った身だしなみの選択肢から自己決定をしていただいております。外出時にはTPOに合わせたおしゃれと一緒に楽しみながら選んでいただいております。			
40	(15) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	能力に応じて食材の刻み・お皿吹き等の家事を行って頂きます。昼・夕食は自社の厨房にて用意。行事食等季節を楽しむ以外に外食や取り寄せなど変化ある食事を提供しております。	昼食と夕食は、同法人の隣接する施設で調理されたものを提供し、朝食はそこから届く食材をホーム内のキッチンで調理し提供している。利用者は、食材を刻んだり食器をふいたりできることを担っている。利用者の苦手な食事についてはできる範囲で個別に対応し、利用者の咀嚼能力に合わせて、刻み、ペースト状にして提供している。職員は、利用者の様子を見ながら同じテーブルで食事を摂っている。時には、利用者の希望を聞いて個別に外食に出かけたり、職員と一緒に桜餅や恵方巻作りなど行事食を楽しんでいる。		

自己 外部	項目	自己評価	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		実践状況		
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士作成の献立表にて栄養管理を行っております。水分摂取の一助としてゼリーや果物を提供し飽きの来ない摂取を努力しております。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛けや誘導を行っております。介助も含め口腔衛生に努めています。		
43 (16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々人の排泄パターンのもと声掛けや誘導を行っております。またトイレでの排泄を勧めるため下肢筋力維持の機会を多く持てる生活になる様支援しております。	個々の排泄パターンを把握しトイレに誘導している。利用者の表情やサインを見落とさないように声のかけ方を工夫しながら見守り支援している。また利用者がオムツの状態で退院してきても、入院前の状態に戻るよう、根気強く支援している。夜間は、ポータブルトイレを居室に備えたり、定時で利用者に声を掛けたり、転倒しないように見守りをしている。下肢筋力維持のため普段から車椅子から椅子に移動するなどして、トイレでの立位、移乗が維持できるように努めている。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘になりやすいかの把握と、その要因にたいしての習慣としての対策を行います。主に排便周期・水分摂取・運動の有無からの改善を目指します。		
45 (17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様毎の希望や状態に応じて行っております。希望される方は毎日入浴を行っております。	浴室には左右二つの浴槽があり利用者の体の状態によって選択している。ほとんどの利用者が、毎日入浴しているが、入浴拒否者には週2回は声掛けを工夫しながら入浴を楽しんでもらえるようにしている。浴槽にはマットを敷き、職員の手が滑らないように泡切れに気を使い入浴事故を防いでいる。入浴時、体の様子に気を配り異常がある時は申し送りノートで職員は情報を共有している。入浴時間や同性介助など利用者の希望に沿えるようにしている。重度化した場合、事業所でのお風呂は難しいと家族には伝えている。	

自己 外 部	項 目	自己評価	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		実践状況		
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を多く行う事で生活リズムが自然に昼夜型になるように支援しております。又安定した排便周期で過ごすことで不穏感を減らすよう努めています。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の服薬リストを作成。主治医の指導のもと管理しております。服薬時2名の職員で氏名の確認を行い誤薬を防いでおります。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	可能な取り組みをそれぞれ把握する事で活動の幅を最大限持てるよう暮らしの中に組み込んでいます。		
49 (18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調を考慮しながらの施設外への散歩を日課としております。季節行事としてドライブや買い物にい出かけており、家族様へも可能な範囲で協力を依頼しております。	利用者は、事業所前の公園や周辺の散歩に毎日のようにでかけている。職員の買い物に付き添ったり、利用者の希望に沿って職員と外食やお菓子などの買い物をして楽しんでいる。週に一度家族と外出する利用者もいる。紅葉ドライブ、あじさい見学やブドウ狩りに出かけたり、また、全利用者と職員、家族も一緒に参加する桜の花見を企画している。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は施設で預り管理しておりますが、力量に応じて自発的な買い物のご判断を頂くよう支援しております。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様の希望に合わせて電話の取り次ぎを行っております。又、年賀状や暑中見舞い作成の支援を行いました。		

自己 外 部	項 目	自己評価	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		実践状況		
52	(19) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間はソファーを於き、ご利用者様がくつろいでテレビを鑑賞できる空間にしております。リビングの壁には季節の作品として掲示物を毎月貼るようにしております。	ダイニングリビングは外光が十分入って明るく、壁には利用者が作った作品が飾られている。台所や事務所から利用者の様子がよくわかる造りになつておらず、椅子は利用者に合わせて座布団や足載せ台を使い調節している。大きなソファーが置かれており利用者がテレビをみながらゆったりと過ごしている。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーとテーブルを使い分け、ご利用者同士の個人的な空間の利用が出来る様配慮しております。		
54	(20) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はその方の要望を取り入れ、本人様や家族様の希望の色彩や配置を聞き、居心地が良い空間であるように努めております。本人様に馴染みがあるものを置いていただくよう家族様にお願いをしております。	各居室の入り口には切り絵で作られた利用者の写真が飾られている。収納スペース、カウンター、ベッド、エアコンが備え付けられている。家族の協力で、使い慣れた馴染みの物を持参し、その人らしく居心地の良い空間を作っている。テーブル、椅子、テレビ、お花やぬいぐるみなどが置かれており、それぞれの暮らしを反映している。利用者のた思い思いの部屋作りになっている。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内バリアフリーにて手すりを設置し危険因子や障害物を排除しつつ自由に行動しやすいようにしております。トイレや居室の表示を付け場所の目印としております。		